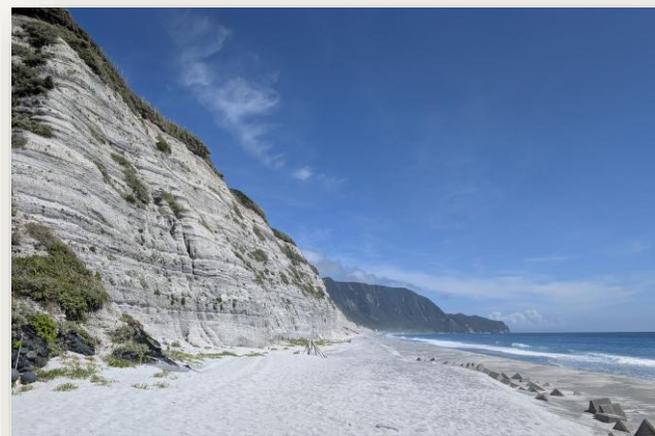


新島方言ドキュメンテーションの これまでとこれから ー協働体制の構築に向けて



令和7年度 第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会
2026年3月14日



S O K E N D A I



西郷 太一（総合研究大学院大学）

アウトライン

➤ 本発表の背景と視点

➤ これまで

- 新島概要
- 新島における地域コミュニティの活動
- 地域によるドキュメンテーションの課題

➤ これから

- 現在進行中のプロジェクト
- 課題と「これから」

本発表の背景と視点

➤ 地域先発型ドキュメンテーションという視点

研究者によるプロジェクトではなく、地域の実践が先行する事例

➤ 近年のドキュメンテーション

地域を実践の主体として位置づけることが強く求められている

「語られる存在」ではなく、「自ら語り、残し、継承する」存在へ

➤ 地域先発型の事例は、研究者と地域の協働体制について何を示すのか



これまで

新島概要

➤ 地区構成

新島村：新島（本村／若郷） ・ 式根島

➤ 人口

新島村2,322人（本村1,630人・若郷241人・式根451人）

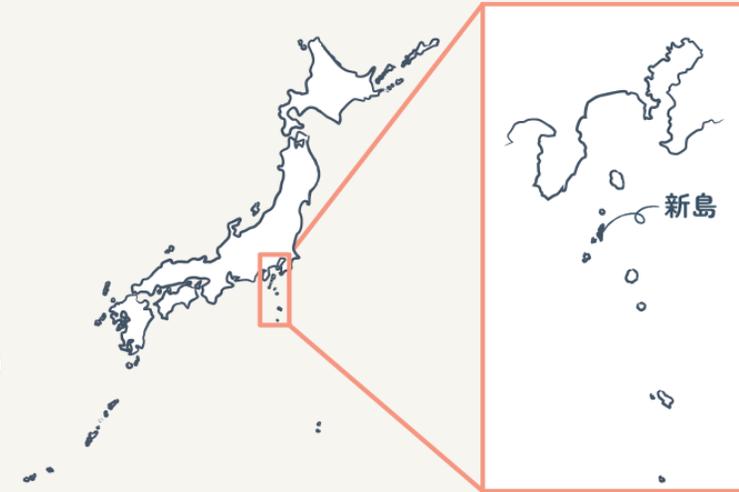
（令和8年3月1日時点：<https://www.niijima.com/>）

➤ 歴史

若郷：1703年（元禄16年）の大地震・津波で移住

1711年（宝永8年）に開村

式根：1889年（明治22年）に開島



新島における地域コミュニティの活動

➤ 新島村立博物館／新島・式根島☆昔の暮らしとことば研究会（11人）

「先祖が受け継いできたものを我々の世代で絶やすことが申し訳なかった」
元々は昔の暮らしの調査 → 2020年頃から方言の調査を開始
博物館の協力組織として、補助事業（2024年）

➤ 記録保存活動

・ 語彙集

若郷俚言集 「もええ」：676項目

本村俚言集 「ゆりいばた」：951項目

式根俚言集 「ヨイトヤン」：676項目

・ 談話音声（1時間程度×200本程度）



現在の企画展示 Present Exhibition

現在、「新島村のなぜなぜ展」を公開しています。
今回の企画展は、新島村の皆様から募集した、新島村についての疑問（地名、昔話、歴史、行事など）について調べたことを、展示しています。写真やイラストでわかりやすく解説しています。観光客の皆様にも興味を持っていただける内容ですので、どうぞご覧ください。

問 羽伏浦海岸と名前がついたのはなぜ？羽伏の漢字は由来があるの？
博物館でぜひご確認ください。

公開期間 令和8年1月20日～令和8年12月27日（予定）

新島村の方言についても資料を展示しています



新島における地域コミュニティの活動

➤ 継承保存活動



https://www.instagram.com/urashi_to_kotoba_kenkyuukai/

木枠フレーム付き
低学年は色鉛筆でパズルぬりえをやるよ!
夏休み×アート×くらし研×郷土料理
わくわくワークショップ
日にち 令和7年8月8日(金)
9時～15時30分
お昼に郷土料理食べられるよ!
ばしよ 吉葉会館
やること
この夏に集中力を使い果たせ! 「パズルぬりえ」
みんなで食べよう! 「郷土料理でおひるごはん」
知ってほしいな、新島のこと!
「新島の怖い話」「方言紙芝居」「昔遊び」
その他にも、
写立立て、シーグラス工作、
複雑見難いハガキ作りなどがあります。
(工作で塗木を使いたい子は持ってきてね)
もちもの
すいとう・ハンカチ・色鉛筆(低学年)
秀れても良い眼鏡
--- おしらせ ---
夏休み中は、吉葉会館の1階コピー(フリースペース)を開放しています。
平日 8:30~12:00 13:00~17:00
しゅくだいをしたり、
プラバンをしたり、
(焼くことができない時間もあります)
お絵かきをしたりー
お問合わせ 新島村社会福祉協議会
☎ 04992-5-1239

社協主催のイベントで方言紙芝居

今週の島ことば NO.0019(2025/6/9)
くんなぶう
○意味 目をとじると。目をじぶると。
□使い方 平井堅の、あの目をくんなぶう歌は、
なんだっけ?
瞳をとじて「じゃね?」

今週の島ことば



「総合」の時間を用いた方言講座 (@新島小学校) 6

新島における地域コミュニティの活動

▶ 対外活動

令和6年度 危機的な状況にある言語・方言サミット
令和7年度 危機的な状況にある言語・方言サミット
言語復興シナジーシンポジウム2025



地域によるドキュメンテーションの利点と課題

- **話者の心理的負担が比較的小さい**

既に信頼関係が構築されており、日常的な接触の延長として調査可能

- **継続的な聞き取りや追加確認を行いやすい**

研究者には調査滞在時間の制約がある

- **共有された生活経験に基づく自然談話の展開**

地域外の人間相手だと、説明することを目的とした談話になりやすい
研究者が想定しない話題が生じることも

地域によるドキュメンテーションの利点と課題

▶ 少人数体制の限界

被調査者・調査者双方の高齢化（調査する側／される側の辛さ）
仕事や日常生活があるため、あまり時間を割けない
特に、書き起こしやデータ整理の負担が大きい
しかし、メンバーを増やすと日程調整など管理が難航

▶ 何をどう残したいのか

何を優先して記録するか（語彙or例文or音声）
書き起こし方法の統一（分かち書き、母音長の表記「いい」「いー」）

▶ 「成果」の壁

終わりが見えず、目標設定が難しい（ゴール3,000語？）
保存活動として何が可能（かつ、有効）なのかわからない

地域によるドキュメンテーションの課題

➤ 活動の担い手の更新

地域住民相手ですら負担な調査を今後研究者が行うことはおそらく不可能
少なくとも調査者の若年化が必要／若手記録者（市民科学者）の育成

➤ 地域に届く成果を生む

潜在的な記録者を巻き込むには、関心を持つきっかけになる「成果」が必要
成果を生むためには記録保存体制の維持・運用が必要

➤ 研究者が参与する余地

体制の維持・運用のための支援（マニュアル化／機材・情報提供）

どのような成果の形がありうるか知るための機会創出

学界－地域の縦の連携だけでなく、地域－地域の横の連携も重要



これから

「いま」－現在進行中のプロジェクト

➤ 若郷集落で実施しているプロジェクト

「方言百科事典（おはなし集）」

言語×伝統生態知×地理情報によるドキュメンテーション

➤ 若郷集落

人口241人のうち、方言話者は20～30人程度（ほとんどが80歳以上）と推定
（地理的要因から上京者多い）

かつては漁業で栄えた集落



目指すべき姿（理念と方法論）

➤ 理念としての **Linguistic Justice** (Leonard 2023)

「何を記録し、どう共有し、どう使うか」をコミュニティが自己決定する
「研究者 ≠ 代弁者」 「コミュニティ = 語り手」

➤ 方法論としての **Community-Based**

Community-Based Language Research, as I define it here, not only allows for the production of knowledge on a language, but also assumes that that knowledge can and should be constructed **for, with, and by** community members, and that it is therefore not merely (or primarily) for or by linguists.

Czaykowska-Higgins (2009: 17 強調は発表者)

実現可能な形とコミュニティのニーズへの応答性

- 初期段階においては、コミュニティが自己決定するための判断材料が不足
- 実現可能な形を提示すること
 - これらを踏まえて、主体的かつ継続的な活動体制の構築・維持を目指す
- **コミュニティのニーズ**
 - 「昔の暮らしとことば研究会」：暮らしとことばの一体的な記録
(俚言集という成果からの接続)
 - 動機付けのため、あまり負荷のかからない参加しやすい内容
(活動に興味のない) 地域の人たちでも関心を引きやすい内容

言語 × 伝統生態知

- ことばを通じて地域に継承されてきた「伝統生態知」の記録
- **Traditional Ecological Knowledge (TEK)** is…
a cumulative body of knowledge, practice, and belief, evolving by adaptive processes and handed down through generations by cultural transmission, about the relationship of living beings (including humans) with one another and with their environment Berkes (2018: 7)
- 言語の喪失は世界知識の喪失 (**biocultural diversity**: Maffi 2005)
- TEKは語彙ではなく文脈の中で談話として記録すべき (Odango 2016)
→ドキュメンテーションと相性が良い

言語×伝統生態知

- たとえば
- 「イスズミ」若郷では「**サセー**」（特に夏に磯臭い未利用魚）
魚類の語彙を網羅的に収集することにも意味はあるが、TEKは現れない
- 語り（談話）の中では、サセーに関する世界知識が現れる

…させーわ くせー さかなだじゃ

「…させーは 臭い 魚じゃない」

…ふゆわ… かいそー たびゅーだから くさくねーってい ゆーよな

「…冬は… 海藻を 食べるから 臭くないって 言うよね」



- 続いて、臭い時期でも「フギ（腸）」は美味しく食べられる話など

新島（若郷）の世界 方言おはなし集

NIJIMA HOGEN
OHANASHISYU

「方言百科事典（おはなし集）」

- 地域コミュニティが作成した**俚言集**から伝統・自然環境に関わる語彙を抜粋
- その語彙を基に談話を引き出す
- 一談話につき1～3分程度を目安
(話題が移ると次の項目として採録)
- 談話中に出現する語彙についても新たに談話を収集することで、**体系的な知**の収集を目指す
- 音声はYouTube上に限定公開
- サンプルで27項目整備済み



いしむん

[icimun] (名詞)

マツバガイ。岩につく背が尖った貝の一種で、磯や港の岸壁等についている。季節にとられることなく、一年中気軽に採ることができた。主に味噌汁に使われた。

磯物(いそもの)からきているのではないと思われる。昔は、磯に行くくと他の貝と合わせてスカリ(網)いっぱいにも獲れたが、民宿の盛んな頃に乱獲があったためか、その数は相当減少していると思われる。



昔はお店がたくさんあるわけではなかったので、自分たちで食材を取って食べる必要がありました。いしむんは、岩につくため貝の中でも採りやすい部類で、泳がなくても子どもにも採ることができたため、採って帰ると喜ばれたものでした。

談話

談話音声は右上のQRコードから再生できます



よしえさん

はめー いきば あすびにやー こまんなかったよな
浜に 行けば 遊びには 困らなかったよな

こまんなかったなー
困らなかったね

なに お ひろっていもさ
何を 拾ってもさ

うんー そーしちよいてい いだーのいそ^{※1}え いきば
うん そうしておいて 伊沢の磯に 行けば

あの こいつの いしおよ ぼんって はがすと こーなってい いたら
あの これくらいの 石を ぽんって はがすと こうなって いたじゃない

かいがな
貝がね

かいが
貝が



きよみさん



いだーのいそ



ひただみ

※1 いだーのいそ: 伊沢の磯。伊沢の磯、若郷の西の端にある岩が沢山あった磯で、トコブシや天草やいろいろな貝が取れた。泳ぐにも最適な磯だった。波浮根に港をつくる際に、テトラポットのヤード(資材場所)に変わった。かつては子供の楽園であった場所を残すことができなかったことを悔やむ声が聞かれる。

おはなし集の構成

- 見出し (発音・品詞)
- 定義
- 音声QR
- 写真 (見出し・関連情報)
- 導入文
- 談話書き起こし
- 注釈文
- 解説 (コラム)

解説 磯に行くとき

若郷

磯では足が滑るため、磯に行くときは草履を履かされました。近所のばーちゃんが草履を組んだものを玄関に置いてあったので、15円を置いて勝手に持って行ってしまいました。

解説 磯に行く

新島

磯に行く、足の良くない母が、ごつごつの岩をすんすんと渡り歩くのが不思議でした。いしむんを食べたい一心だったのでしょうか。お湯をかけて貝から外して、お刺身として食べるのが好きです。煮付けにしても、みそ汁にしても美味しいです。「いしむんの みそしらー うんめーなーよ(いしむんの みそ汁は 美味しいよね)」

協働とその効果

- 地域コミュニティにとって書き起こしは負担が大きく、
写真・定義・導入文・注釈文・解説（コラム）の提供・作成を依頼
- 若郷以外の地点の情報は、解説（コラム）欄に分けて集約
- 回想をもとにした情報提供が多かったが、高齢話者に聞き取りをしてくれたケースも
- 27項目で、約14,000字の情報提供
- 昔のことを知ることが、地域高齢者との関係構築を助ける
- 今後、27項目サンプルのフィードバックを得る

課題と「これから」

- 百科事典というアーカイブによって消えてしまう情報
- TEKは土地・場所との関係のなかに埋め込まれたplace-basedな知識として捉えられる (Chiblow and Meighan 2021)
(山菜を採る場所、くさやの加工場があった場所…)
- 百科事典では、本来土地・場所と不可分な多面的な知識が、音声やテキストを中心とする平面的な情報に変換されてしまう

言語 × 伝統生態知 × 地理情報

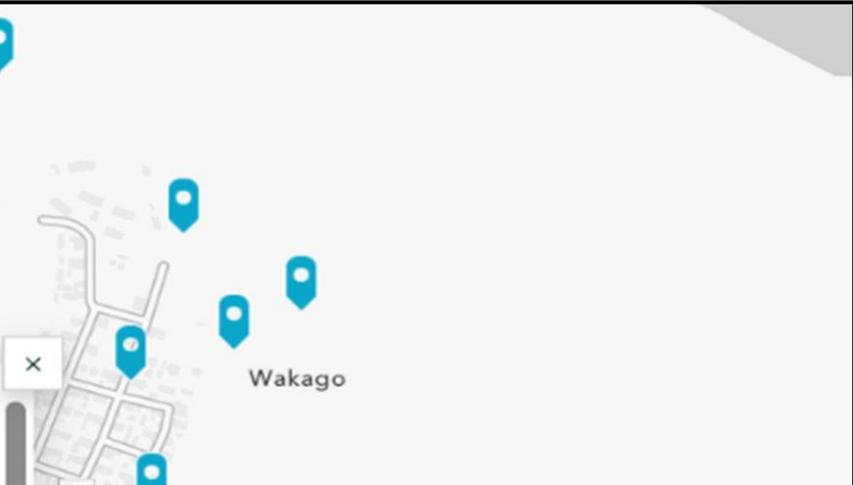
- **ArcGIS StoryMaps**によるマッピング (実践例としてKo and Burch 2025)
ESRIが提供する、マップにテキスト・画像・動画などを組み合わせたWebページを作成・公開可能なアプリケーション
- 方言百科事典情報を地理情報と結びつける試み
TEKをその場所との関係を保ったまま提示する
- 地点/対象の写真・注釈・談話音声・書き起こしが同時に閲覧可能
- 音声・テキスト・画像・地理情報を結びつけるマルチモーダルなドキュメンテーションの実現



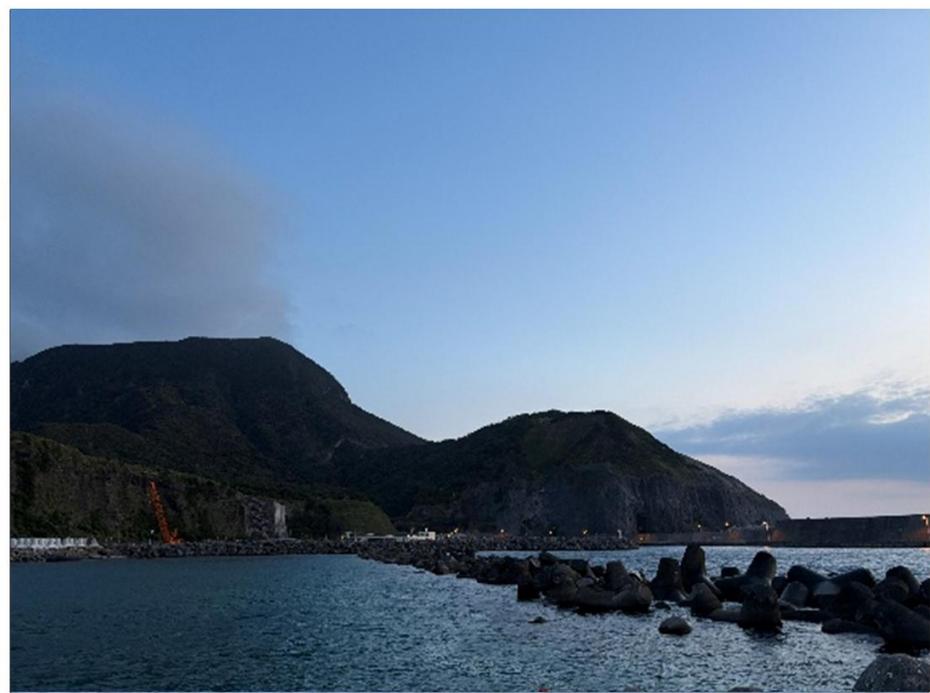


させー

国内の比較的暖かい海域に生息している。海藻食であり磯焼けの原因となるなど深刻な環境問題を引き起こすが、臭味があり多くの地域で廃棄され



Wakago



A:させーわ くせー さかなだじゃ
 (イスズミは臭い 魚でしょう)

B:くせー さかな そいだから ふゆわ あいらけどさ
 (臭い 魚 それだから 冬は あれだけどさ)
 なつん なうと ぜんぜん うっちゃっちゃうけど
 (夏に なんと 全然 捨ててしまうけれど)

A:ふゆわ たべらえうど
 (冬は 食べられるよ)
 ふゆわ なんかさー かいお たびゅーから くさく
 ねーってい
 (冬は なんかさ 貝を 食べるから 臭くない
 って)
 かいそー たびゅーだから くさくねーってい ゆー
 よな
 (海藻を 食べるから 臭くないって 言うよ
 ね?)
 なつん なうと くせーってさー
 (夏に なんと 臭いってさ)

B:くせー くさくていな そいでい
 (臭い 臭くてね それで)
 そいだきゃー ふぎだきゃー こーと やっちよいてい
 おら そろーば くーけども
 (それだから ふぎだけは こうやって やっておいて
 私 それを 食べるけども)
 でいよー
 (でさ)

おわりに

➤ 目指すべき研究者の位置づけ：

記録対象・内容を決めるのではなく、記録の枠組み・技術・公開形態の選択肢を提示し、地域の自己決定を支える存在

➤ 「地域に還元する」という課題？

何が実現したら地域への還元が達成されたと言えるのか？

むしろこの発想自体が、研究者に決定権が偏った構図を前提にしている？

➤ 「どう還元できるか」から「どう参与し、支えられるか」を出発点に

参考文献

- Berkes, F. (2018) *Sacred ecology*, Fourth edition. New York: Routledge.
- Chiblow, S. and P. J. Meighan (2021) Language is land, land is language: The importance of indigenous languages. *Human Geography*, 15-2: 206–210.
- Czaykowska-Higgins, E. (2009) Research models, community engagement, and linguistic fieldwork: reflections on working within Canadian indigenous communities. *Language Documentation and Conservation*: 15-50.
- Ko, E. and J. Burch (2025) Transcription as an iterative and interpretive practice: Documenting connected speech in Apsáalooke (Crow). *Language Documentation and Description*, 25-1: 1-26.
- Leonard, Wesley Y. (2023) Refusing “endangered languages” narratives. *Daedalus*, 152-3: 69-83.
- Maffi, L. (2005) Linguistic, cultural, and biological diversity. *Annual Review of Anthropology*, 34: 599-617.
- Odango, E. L. (2016) A discourse-based approach to the language documentation of local ecological knowledge. *Language Documentation and Conservation*:107-154.

謝辞

本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「消滅危機言語の保存研究」（PL：山田真寛）による支援および、人間文化研究機構「若手研究者海外派遣プログラム（令和7年度）」の助成を受けて実施されたハワイ大学マノア校における研究活動に基づいたものである。

本研究に協力してくださっている新島の方々に感謝申し上げます。